

琉球大学学術リポジトリ

沖縄関係

沖縄復帰記念式典(4) (ロジスティックス関係)

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43583

記念植樹祭

政経情報(その2)

47. 2. 15

復帰記念植樹祭に天皇、皇后両陛下
をお招きすることについての沖縄現地の
反響について

復帰記念行事の一つとして行われる予定の植樹
祭に天皇、皇后両陛下をお招きすることについて、現地

沖縄では賛成、反対の意見がきかれるが、これらの動
向や各界の意見を新聞報道からとりまとめると共に、

につきご答覆までに送付する。

説 社

天皇ご招待について

1972. 1. 31
S. 42

住民感情を無視するな

天皇、皇后両陛下が沖へお招きなされたことが、早くもその是非をめぐって大いに異議を醸成している。

秋に開催予定の植樹祭をきっかけに、といふ程度で、それが言ひ出されたのか、直後の動機も異は、キリとはしていない。ただ、皇室行政は、これまでこのことを議論の余地がなかったことがあり、沖、同防衛博覧会協会の発起人会に出席しての通り、二十七日の記者会見で、このことを再度にわたって意思表明をおこなったことは事実で、その口吻から推して、皇室として、その旨を表明したことはなると判断せざるを得ない。

主権の議論にもあるとおり、国家の行事の二つとしておこなわれる植樹祭には、いかに、かなり後述である。

慣習に拘わらず

それ、復婚を記念する行事に對する神皇正統記の反意は、一概、行事に對して、いかに、かなり後述である。

また、沖、皇后両陛下が、この植樹祭に出席することになったのは、植樹祭の準備が、その都道府県の首長は、内閣に内閣府の出席を要請することになったのである。

植樹祭は、皇室の慣習である。皇室の慣習は、皇室の慣習である。皇室の慣習は、皇室の慣習である。

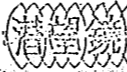
また、沖、皇后両陛下が、この植樹祭に出席することになったのは、植樹祭の準備が、その都道府県の首長は、内閣に内閣府の出席を要請することになったのである。

植樹祭は、皇室の慣習である。皇室の慣習は、皇室の慣習である。皇室の慣習は、皇室の慣習である。

天皇訪沖で主権と与党が対立

〇一植樹祭を契機として、皇室行政の是非が、大いに議論を醸成している。秋に開催予定の植樹祭をきっかけに、といふ程度で、それが言ひ出されたのか、直後の動機も異は、キリとはしていない。ただ、皇室行政は、これまでこのことを議論の余地がなかったことがあり、沖、同防衛博覧会協会の発起人会に出席しての通り、二十七日の記者会見で、このことを再度にわたって意思表明をおこなったことは事実で、その口吻から推して、皇室として、その旨を表明したことはなると判断せざるを得ない。

主権の議論にもあるとおり、国家の行事の二つとしておこなわれる植樹祭には、いかに、かなり後述である。



皇室行政の是非が、大いに議論を醸成している。

また、沖、皇后両陛下が、この植樹祭に出席することになったのは、植樹祭の準備が、その都道府県の首長は、内閣に内閣府の出席を要請することになったのである。

植樹祭は、皇室の慣習である。皇室の慣習は、皇室の慣習である。皇室の慣習は、皇室の慣習である。

また、沖、皇后両陛下が、この植樹祭に出席することになったのは、植樹祭の準備が、その都道府県の首長は、内閣に内閣府の出席を要請することになったのである。

植樹祭は、皇室の慣習である。皇室の慣習は、皇室の慣習である。皇室の慣習は、皇室の慣習である。

また、沖、皇后両陛下が、この植樹祭に出席することになったのは、植樹祭の準備が、その都道府県の首長は、内閣に内閣府の出席を要請することになったのである。

植樹祭は、皇室の慣習である。皇室の慣習は、皇室の慣習である。皇室の慣習は、皇室の慣習である。

また、沖、皇后両陛下が、この植樹祭に出席することになったのは、植樹祭の準備が、その都道府県の首長は、内閣に内閣府の出席を要請することになったのである。

植樹祭は、皇室の慣習である。皇室の慣習は、皇室の慣習である。皇室の慣習は、皇室の慣習である。

絶対許してならぬ天皇系沖

二十七日の植樹祭に、皇室行政の是非が、大いに議論を醸成している。秋に開催予定の植樹祭をきっかけに、といふ程度で、それが言ひ出されたのか、直後の動機も異は、キリとはしていない。ただ、皇室行政は、これまでこのことを議論の余地がなかったことがあり、沖、同防衛博覧会協会の発起人会に出席しての通り、二十七日の記者会見で、このことを再度にわたって意思表明をおこなったことは事実で、その口吻から推して、皇室として、その旨を表明したことはなると判断せざるを得ない。

天皇のご人格

天皇のご人格は、皇室の慣習である。皇室の慣習は、皇室の慣習である。皇室の慣習は、皇室の慣習である。

不安、動揺のさなか

不安、動揺のさなか、皇室の慣習は、皇室の慣習である。皇室の慣習は、皇室の慣習である。皇室の慣習は、皇室の慣習である。

皇室の慣習

皇室の慣習は、皇室の慣習である。皇室の慣習は、皇室の慣習である。皇室の慣習は、皇室の慣習である。

天皇訪沖と戦

日本の悲劇... 天皇陛下の御訪沖は、戦時下の日本に於ける一大事業と見られて居る。陛下の御訪沖は、戦時下の日本に於ける一大事業と見られて居る。陛下の御訪沖は、戦時下の日本に於ける一大事業と見られて居る。

天皇訪沖と戦争責任

謝罪を要求する... 天皇陛下の御訪沖は、戦時下の日本に於ける一大事業と見られて居る。陛下の御訪沖は、戦時下の日本に於ける一大事業と見られて居る。

天皇と米沖阻

止機運に思ふ... 天皇陛下の御訪沖は、戦時下の日本に於ける一大事業と見られて居る。陛下の御訪沖は、戦時下の日本に於ける一大事業と見られて居る。

天皇訪沖、現時点では問題

天皇陛下の御訪沖は、戦時下の日本に於ける一大事業と見られて居る。陛下の御訪沖は、戦時下の日本に於ける一大事業と見られて居る。

天皇アレルギヤやめよ

天皇陛下の御訪沖は、戦時下の日本に於ける一大事業と見られて居る。陛下の御訪沖は、戦時下の日本に於ける一大事業と見られて居る。

屋良主席にも申す

天皇陛下の御訪沖は、戦時下の日本に於ける一大事業と見られて居る。陛下の御訪沖は、戦時下の日本に於ける一大事業と見られて居る。

(読者新聞)

(第三種郵便物認可)

昭和47年1月21日 (金曜日)

両陛下 沖縄ご訪問確実に

植樹祭を機会に 屋良主席が来月要請

天皇、皇后両陛下の本十有餘年の沖縄訪問が、いよいよ現実となった。今秋沖縄で行なわれる植樹祭を機会に、両陛下は二十日、琉球特別植樹祭として、琉球政府から正式に要請がある。二十日、植樹祭の日程は十月二十一日(日曜日)が前半で、二十一日(日曜日)が後半として、両陛下がそれぞれ植樹をなさるとの見解を、琉球政府の要請に基き、両陛下の御訪問を要請する。琉球政府は、二十日、天皇、皇后両陛下の御訪問を要請する。琉球政府は、二十日、天皇、皇后両陛下の御訪問を要請する。琉球政府は、二十日、天皇、皇后両陛下の御訪問を要請する。

朝日新聞

(23) 13版 昭和47年(1972年)1月21日

両陛下の沖縄 訪問を期待

琉球政府

11月に復帰記念植樹祭

琉球政府は、二十日、天皇、皇后両陛下の御訪問を要請する。琉球政府は、二十日、天皇、皇后両陛下の御訪問を要請する。琉球政府は、二十日、天皇、皇后両陛下の御訪問を要請する。琉球政府は、二十日、天皇、皇后両陛下の御訪問を要請する。琉球政府は、二十日、天皇、皇后両陛下の御訪問を要請する。

1月27日付

植樹祭への出席
 1. 27 出席要請を送る
 47 券を、屋良主席
 沖縄の本復帰を記念して十一
 月開港百年の「沖縄特別植樹祭」
 に天皇、皇后陛下の出席を要
 請するため、上京した屋良主席は
 二十六日、ひまぎの事務所を
 合わせることし、同日は宮内庁
 を訪ねた。
 これは、屋良政権をなさる社
 会党の正盛三郎の代表が二十五
 日、植樹祭に出席下の出席を要
 請すべき旨を、申し入れたた
 め、屋良主席はこの結果、予定
 を繰り上げて十七日午前開港
 百年の写像と題を掲げた上で、
 来月上旬にも再び上京し、正式の
 要請をしたい考えだ。

1. 27 (日)
 屋良主席、消極
 的態度を表明
 47 両陛下の植樹祭出席要請
 務政府の屋良主席は二十日
 午前十一時半、総理府に山中議長
 官を呼び、約二時間談話しが、
 この多岐の出席を要しての十一
 月の沖縄復帰記念特別植樹祭に天
 皇、皇后陛下の出席を要請い
 られること出席に異論が出たためと見
 られる。

儀典官
儀典官
官
官

アメリカ局
参事官
北米第一課

沖縄の復帰記念植樹祭について

47.1.20
北米第一課

本件に関する別添1月20日付東京新聞記事
に關し、井築元総務課等より聴取した事情次
のとおり。

1. 昨年10月中旬、国土緑化推進委員会は、
昭和47年度における植樹祭の実施計画に
つき、琉球政府^{より}屋良行政主席他の出席を得て
理事会を開催した際、屋良主席は本年11月
頃沖縄において沖縄復帰記念植樹祭
を行ないたいと述べ、右は同理事会が
承認された経緯がある。但し屋良主席は
その際本件植樹祭には両陛下をお迎えして

行ないたいと言わなかった由。(注、大後
琉政東京事務所長によれば、屋良主席は当時
沖縄の復帰見通しが困難であったこと、また、
治安についても確信がなかったため両陛
下のご訪問については言いおせなかったもの
の由。)

2. 1月上旬屋良主席上京の際、山中総務長官
を往訪(予算内聚)したところ、山中総務
長官より両陛下下の沖縄復帰記念植樹祭
ご訪問につき琉球政府の態度がはつち
しないので、徳川国土緑化推進委員合理事
長が心配していること早く態度をきめ
てもらいたいと要請したところ、屋良主席
は直ちに電話をもって宮里副主席と連絡

し、本件植樹祭には両陛下もお趣に行なう方針を決め、宮内庁に対しては

次回屋良主席上京の際正式に両陛下の沖縄訪問を依頼することになった。

3. 同記事によれば、両陛下の沖縄訪問については山中総督長官より瓜生宮内庁

次長に要請したように報道されているが、右は事実と反しており、内容も正確でないところがある。（推測記事であると思われる。）

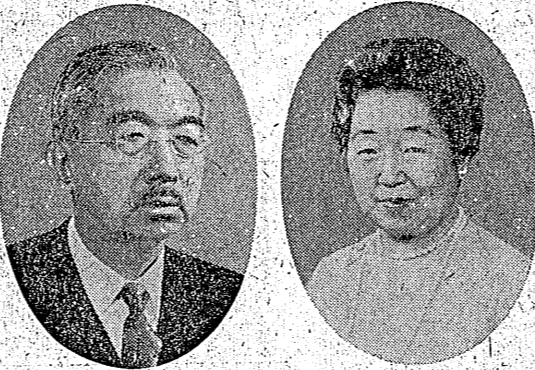
なお、本件植樹祭については、昭和46年度予算において46百

余万円の予算が準備費として計上されており（日政援助金）、本件植樹祭は

所要の手續を完了上執行されることにならう。

両陛下 沖縄ご訪問

11月、復帰植樹祭に



天皇陛下、皇后陛下

屋良主席が申し入れ

政府が十九日明らかしたことは、天皇、皇后陛下が、復帰植樹祭の行事の一環として十月二十日に沖縄でいらっしゃる。復帰植樹祭は、復帰の象徴として、沖縄の復興を促進する目的で、復帰の日、山岳、丘陵、河川、湖沼等に樹木を植栽することです。

陛下が沖縄にお出になるとは、きわめて重要なことである。屋良主席が、日本が未だ自衛防衛の要として、五月十日の復帰を待って正式に返国した。今回のご訪問は、陛下の御心づかいから、復帰の象徴として、復帰の日、山岳、丘陵、河川、湖沼等に樹木を植栽することです。

宮内庁、琉球政府、琉球放送協同して決める。

天皇陛下は、皇太子陛下の六十年、ヨロシキの勳章の途中、那覇で存続の訪問になる。復帰の日、天皇陛下がご訪問されるのは、初の初参り。復帰の日、天皇陛下は、ご訪問されることになる。

天皇陛下は、復帰の日、琉球放送協同して決める。

復帰の日、琉球放送協同して決める。

復帰の日、琉球放送協同して決める。

大原 秘書官
儀典官
不局 北米

アメリカ局長
参事官
北米一課長

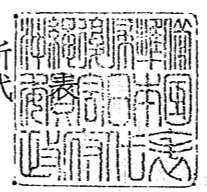
秘密標記(赤色)

古田 中
3/3

第 99 号
昭和 47 年 3 月 2 日

外務大臣 殿

在準備委代表事務所
高瀬 代



- 総務
- 秘書官
- 渉外調査
- 漁業
- 航空
- 科学協力
- 送達調整
- 調査
- カナダ
- 局庶務

(件名) 天皇陛下の沖縄御巡幸を仰ぐ、沖縄県紀元節奉祝会
の要請

引用公・電信
口付・番号

今般 沖縄県紀元節奉祝会(稲嶺一郎会長)

より、別添のとおり本年秋の復帰記念植樹祭に天皇陛下の
御巡幸を賜ふり関係当局の配慮方を要請する書簡に
接し、報告する。

付属添付 付属空便(行) 付属空便(DP) 付属船便(貨) 付属船便(郵)

本信送付先:
本信写送付先:
省内写配布希望先:



子、ONTA、言内方、自治省、農林省、3/3

島崎へ

昭和四十七年二月十六日

お前、和を多し

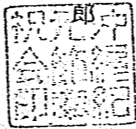
後帰準備委員会

日本政府代表

大使 高瀬侍郎 殿

沖繩県紀元節奉祝会

会長 稲嶺 一



建國記念の日奉祝大会に於ける
天皇陛下の沖繩御巡幸を仰ぐ緊急動議について

二月十一日、沖繩に於ける国民の祝祭日として法制化されない最後の建國記念の日奉祝大会が、沖繩県紀元節奉祝会の主催で那覇市内琉球新報ホールに於いて盛大に開催されました。本会は十数年に亘り建國記念行事及び法制化促進運動を、県民多数の参加のもと強力に推進して来た団体であります。

◆ 今大会に於いて、「天皇陛下の沖繩御巡幸を仰ぐ緊急動議」が発議され別紙の通りこれを決議したのであります。

◆ 本会は五月十五日の祖国復帰を県民共々に喜び、併せて国民の一員として豊かな新生沖繩県づくりに邁進する所存であります。二十七年に及ぶ異民族施政下を脱し、心身共に日本人としての誇りと自覚を収戻すには、豊かな環境づくりが、まづ才一番であるかと存じます。その意味におきまして天皇陛下の沖繩御巡幸が実現致しますよう関係御当局においてお取り計らいをお願い致します。

天皇陛下の御巡幸を仰ぐ緊急勅諭

神國の祖國復帰記念植樹祭に、天皇陛下の御巡幸を仰ぐ事について
賛否両論がマスコミをにぎわして居ります。

御招待に反対する主な理由の一つとして天皇は戦争責任者であるか
らということでありますが、これは天皇陛下に対する大きな認識のあ
やまりであります。

戦争直前の御前会議のとき今上陛下は明治天皇の御製を懐より出され
「西方の海みをはらからと思ふ世になど波風の立ちさわぐらむ」と御
詠みになられたのであります。

この御製の示す通り天皇陛下は大東亜戦争に反対であられたのでござ
います。

終戦の御聖断を下され、戦争を收拾され、この年昭和二十年九月二
十七日、占領軍の総司令官マッカーサー元帥と会見された時には「閣
下は今市ヶ谷プリンスにて一千数百名の戦犯者を審判されつゝあるが
吾が、日本国の戦争は全く予裕仁一人の全責任であつて自分より外に
一名の戦争責任者もない。

日本の戦争責任者は裕仁一人なることを明白に言明申し上げる」と仰
せられたのであります。

この戦争は自分の全責任であると自ら言明なし侍たものは近代歴史
に未だ且て一名もないのであります。

吾が日本国の天皇ただお一人であります。

私たちはこのよりの御徳の高い天皇陛下を戴く日本に生をうけたこ
とを、この上なく誇りに思ひます。

私たち沖繩は五月十五日には二十七年の長い異民族支配に終止符
を打つて祖國に復帰いたします。

この復帰記念植樹祭に天皇陛下の御巡幸を仰ぐということはこの上
なく意欲深いことであり、尊く有難いことであり、全県民が無上の光榮

とするところであります。

關係当局におかれては沖繩の復帰記念植樹祭に天皇陛下の御巡幸を
賜るよう御尽力のほど懇請致します。

本大会の名に於て右決議する。

皇紀二千六百三十二年二月十一日

沖縄県建国記念の日奉祝大会

